

•あすなろ文集•

きぼう

•卒業記念•



1962

三井美唄小学校

いつも心に

牧田繁雄

目次

ふど 気がついた時 私は暗闇に独りいた
腕を伸し何ものかを求めた

大きく眼を見開いた、しかし ただ

まなじりのさける思いだけが残つた

闇は圧力となり、息苦しさが殺つてくる

私は動けぬまま押し潰されてしまうのだら

うか

そんなとき

父の母の先生の友達の 顔々々

そうだ。がんばれどいつている顔だ

針のめどを通つて来たような光

小さいけれど 光りを見た!!

光がうるむ頃 ほゝをつたわるものを感じ

やがて暗闇は 音もなく去り

黎明は東をそめて

希望よ 光よ

私は大きく 胸を張りひろげる

一九六二、一、三〇一

組名	ページ
六年一組	一
二〃	六
三〃	一一
四〃	一八
五〃	二四
六〃	三〇
七〃	三六
八〃	四三
九〃	四九
十〃	五五
一一〃	六〇

きぼう



三井美唄小学校

あとがき

いとけなかつた一年生の入学式もついこのあいだのよう
に思われるのに、もう六年生の卒業式が目前にせまつて
います。中学生になるのです。そして一歩大人に近づ
きます。人生は、すこしもとどまることのないがんばり
の連続でなければなりません。自分の力いつばいの努力
をはらう生き方の中にこそ、もつとも尊い人生があるの
だと思ひます。なまけ心やわがまま、いばりくさつたり
ひとをうらやんだり、ねたんだりするような生き方だけ
はしたくないものです。真実にはじまり真実におわるよ
うな生き方をしたいですね。自分の心をぜつたいにうら
ぎらない生き方、それこそ真実というものだと思ひます。
それにはやはりまず自分をみがくことです。勉強するこ
とです。勉強して勉強して、自分がいかに不十分な人間
であるかを知るべきです。「真理に面することを恐れる
ものは戦いのぞんで敵刃を恐れるものに等しい」とい
います。どんな苦しみにもなやみにもまけないで、真実の
道をつらぬき通して生きたいものです。今迄の、あまや
かされていた子供の時代とちがつて、これからの人生に
は、「星を仰いで孤独の実感をひしひしと感ずる」事も
あるでしょう。子供の時代にはなかつた、世の中の数々
のわずらわしい出来事にもであうでしょう。けれども、
いつも未来への夢を失わず希望にもえて強く雄々しく生
きたいものです。

かぐわしく、かぎりなくあこがれにみちた珠玉のよう
に尊い青春にこれからのぞむみなさんですもの。あらゆ
る低俗なものを許さず妥協や謀略をさげすんで、清く直
く進みましよう。偉大なるものをあがめ、功利や打算を
しりぞけ、地上に、自由と理想の國土を描きましよう。
卑しいせんだう者に雷同せず、仲間を尊敬し自然を心か
ら愛し、より高いものに服従の誠をささげましよう。そ
して全生命をもつて歌いましよう。暁の明星のように輝
かに、夏の朝の風のように爽やかに。そして堂々と、黙
々と働きましよう。つねに真実を語りましよう。「あゝ
老いたりこれ誰の罪ぞ」と後悔する日の無いように。

(六学年主任)

昭和三十六年 六年担任

六田 正勝 (一組)	萩原 栄 (七組)
泉 正勝 (二〇)	中新田秀行 (八〇)
宮川 淳子 (三〇)	遠藤 忠雄 (九〇)
山田 平 (四〇)	上本 忠 (十〇)
山崎 香 (五〇)	村木 由松 (十一〇)
近江 広子 (六〇)	

「さぼう」 卒業記念文集

昭和三十七年三月 八日 印刷
昭和三十七年三月 十日 発行

編集者 三井美唄小学校六年部会

印刷所 岩見沢市五条西一丁目

株式会社 白楊社

電話 一八二〇番

発行者 三井美唄小学校六年部会

電話美唄局 二三四九



名前	六年組	美唄市立三井美唄小学校